

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370091

研究課題名(和文) 農閑工芸の研究 - 軟質文化の造形から -

研究課題名(英文) Noukan Kougei Research Project through the Insight of Nanshitsu Bunka

研究代表者

宮原 克人 (MIYAHARA, Katsuto)

筑波大学・芸術系・准教授

研究者番号：80400662

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：草木を扱い、わずかな道具で建物や容器、そして衣服などを作る「農閑工芸」の事例収集・分析を行った。「農閑工芸」の背景にある軟質文化の造形に焦点を当て、東北地方における樹皮造形と八重山地方における草木造形を比較した結果、素材の採取方法から造形手法まで、多くの共通点があることが分かった。

本研究によって得られた知見から作品を制作し展覧会に出展した他、各地においてワークショップを開催するなど、「農閑工芸」の研究が現代社会においても有効に働く事を示した。

研究成果の概要(英文)：We collected Noukan Kougei related samples and analyzed them focusing on the Nanshitsu Bunka aspect of their creation. Noukan Kougei are simple craft works, created using limited tools and natural materials during the agricultural off-season. Nanshitsu Bunka refers to a cultural system where a natural material, such as wood, is transformed into a variety of objects, such as a house or cloth fiber, through simple tools without standardization. Through the comparison of the bark craft works around the Tohoku region (Northeast Japan) and the grass-wood craft works in the Yaeyama islands (Southwest Japan) we found that they both had common grounds. Even though the two locations are far away, material collection and creation process techniques proved similar. By using this insight, various artworks were created and exhibited. In addition, the knowledge was shared to workshop participants; indeed, Noukan Kougei proved that it has been continuously working in the modern society.

研究分野：工芸

キーワード：工芸 民藝 自然素材

1. 研究開始当初の背景

大量生産、大量消費が文化の一面となっている現代では、使い捨ての物にあふれ人と物の関係が危うくなっている。効率が求められる生産現場では、素材への深い理解力の喪失とともに、物を作り出す喜びも失われている。

森林資源やワラ等を有効に扱う「農閑工芸」は全国各地に見られ、身近な自然素材から優れた器物が作り出されている。作業効率を追求した画一的なもの作りではなく、自然素材の特性に合わせながら、工夫された製作道具で形が決められる。例えば、栗の花が咲いたらヤマブドウの蔓を採取する。樹皮を剥ぎ取り、水で灰汁を抜き、太さを整え籠を編む。また、ネマガリダケを使った籠作りでは、採取する標高によって素材の使い方を決定する。このように「農閑工芸」では、素材への深い理解がなければ用に耐える優れた器物を生み出すことはできない。本研究では、日本のもの作りの原点とも言える軟質文化による造形に焦点を当て、事例収集・調査・分析を行い「農閑工芸」の新たな造形原理を獲得し、現代社会における活用方法を検討する。

2. 研究の目的

草木を扱い、わずかな道具で建物や容器、そして衣服などを作る軟質文化の事例収集・分析から「農閑工芸」の検証を行い、実践的な「農閑工芸」の造形論を構築する。

これまでの研究から、「農閑工芸」を現代に活用する方法論は明らかになった。それは、調査・分析・ワークショップ・実験制作を有機的に繋げる方法である。特に、調査地にて行うワークショップは、人的交流・多領域の交流が促進され地域社会の活性化につながる。しかし、これまでの教育や制作への活用を前提とした「農閑工芸」の研究では、「農閑工芸」そのものの造形原理を獲得するまでに至っていない。「農閑工芸」の定義を検証するための客観的な資料収集と分析が必要である。そこで、日本のもの作りの原点とも言える軟質文化の造形に焦点をあてるのが有効であると考えた。軟質文化による造形が残る地域において、造形方法・技術を詳細に調査、分析し、軟質文化からの視点による「農閑工芸」の検証を行い、新たな知見の獲得をめざす。

3. 研究の方法

「農閑工芸」はワラ細工に代表されるが、自然環境との関わりが深い事例を調査の対象とする。そのため、稲作以前より現代に続く事例を取りあげ、調査と分析を行う。これまでの研究より、東北地方と八重山諸島に軟

質文化を強く反映した造形表現が残る事が分かった。東北地方では秋田県、福島県において、シナ・クルミ・ヤマブドウ・カバ・ヤマウルシ等の樹皮を使った事例調査を中心に、八重山諸島では石垣島、西表島においてピロウ・アダン・チガヤ・ソテツ・アデク等の草や葉を使った事例を中心に調査する。また、調査の際には現地で専門家の指導のもと、実際に制作をしながら、制作工程を調査した。それらの結果を分析し、現代社会での活用を視野に入れ、ワークショップや実験制作、展覧会等で客観的な評価を得ながら妥当性の検証を行った。

4. 研究成果

(1) 事例調査・分析

① 軟質文化に焦点を置きながら、農閑工芸に関連する事例を集め、それを解析した。東北地方の樹皮造形と八重山諸島の草木造形の比較を通し、双方が遠い場所にも関わらず、素材の採取方法や造形手法など、数々の共通点を見出すことができた。東北地方の樹皮と八重山地方の草木は、造形素材として採取された後、使用目的に沿った大きさに加工した後十分に乾燥させて保存する。そして、加工する際には、可塑性のある状態にするため水に付けて柔らかくして加工する。農閑期、いつでも作業を始めることができるような素材としている。

② 農閑工芸のひとつであるほうき作りについてまとめた。つくば市の伝統産業であるほうきづくりに着目し、素材となるホウキモロコシの栽培方法、ほうき製作の詳細な工程を調査した。

また、ススキやコキア等を使用したほうきの制作方法についても調査し、汎用性の高い制作方法を検討し、ほうき作りのワークショップの方法を検討し実施した。



クバの釣瓶 西表島にて制作



キハダの樹皮採取 秋田市



サワグルミ・ヤマザクラの樹皮、サルナシの幹で制作した容器

(2) 現代社会において「農閑工芸」の造形原理を活用する作品制作・発表を行った。軟質文化の造形手法を分析し、それをもとに「農閑工芸」の造形の可能性を探求した。木材や樹皮をはじめ、自然素材をお主な素材として制作した。地域とアートとの関係性について、展覧会の開催場所で素材を調達するなど、「農閑工芸」の造形手法を取り入れた。企画展や公募展、地域でのアートプロジェクトに参加し、成果を公表するとともに客観的な評価を得る機会を設けた。

- ① 「Life Record -装飾器-」 会津・漆の芸術祭、2014
- ② 「旅をする漆の器」喜多方・夢・アートプロジェクト 森ものがたり、2014
- ③ 「Life Record 2015」会津・漆の芸術祭、2015
- ④ 「Life Record -生成と生業-」 KENPOKU ART 2016
- ⑤ 「螺鈿 ヤコウガイ」企画展『Plants Planets プランツ・プラネッツ』、はじまりの美術館
- ⑥ 「花の咲く場所」会津・漆の芸術祭、2017
- ⑦ 「Life Record (カラタチ)」国際漆展・

石川 2017

- ⑧ 「ほうきパラダイス展」、つくば市市民ギャラリー、2017年11月21日～11月26日、



(3) 「農閑工芸」の生産地や筑波大学において、教育への応用を念頭においたワークショップを重ね、教育コンテンツとしてまとめた。それらを活用し、保育園から大学、地域住民を対象としたワークショップを開催し、ワークショップの手法について妥当性を検討した。

- ① 「秘密基地」、企画展『Plants Planets プランツ・プラネッツ』、はじまりの美術館、2017年8月22日～10月22日
- ② 「ほうきをつくろう」石岡第一高校、喜多方第一中学校、木曾開田保育園、はじまりの美術館ほか

(4) 冊子
ホウキモロコシの栽培と利用についてまとめた他、作り方のマニュアルを作成した。

(5) ホームページによる情報公開
事例収集、ワークショップ、作品等の情報を公開した。

(6) 本研究の成果を社会へ還元する活動を行った。

- ① 口頭発表「地域資源を活用するアートプロジェクト」いばらき漆振興コンソーシアム、2016
- ② 口頭発表「地域資源を活用するアートプロジェクト」木曾地域地場産業振興センター、2016
- ③ 口頭発表「地域資源を活用するアートプロジェクト」喜多方市文化芸術創造都市推進事業「市民プロジェクト」プログラム、2017年

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計2件)

- ① 宮原克人、「地域資源を生かした農閑工芸の提唱」、『地域資源活用 食品加工総覧』追録第14号、収録巻：第8巻(加工品編)食品以外の加工品、298の6～298の17、農文協、2017
- ② 宮原克人、福島梓、「ホウキモロコシの栽培と利用」、『地域資源活用 食品加工総覧』追録第14号、収録巻：第8巻(加工品編)食品以外の加工品、298の46～298の61、農文協、2017

[その他]

ホームページ等

<http://www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~miyaharalab/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮原 克人 (MIYAHARA Katsuto)

筑波大学・芸術系・准教授

研究者番号：80400662

(2) 研究協力者

福島 梓 (HUKUSHIMA Azusa)